

向学館通信

2008・12・26

この一年、頑張って成績を上げた人がたくさんいます。成績が良くなり、人柄も明るくなった人もいます。そういう子供たちを見て、塾を続けてきてよかった、と心から思います。来年も、着実な前進を願っています。

今年は世界全体が経済危機におちいるという大変な一年でした。 時事問題にも関心を持とう！

今年は、考えさせられる社会的な出来事がたくさんありました。お正月の休みに、ご家族で、こうした問題を論じて、社会問題に通じてほしいと思います。

今年起こったことの中で、一番大きかったことは、世界的な経済恐慌です。この経済の落ち込みは、十年くらいごとにくり返し起こる「不況」などとは、その規模も理由も違います。これは、言われているように「百年に一度」とか「未曾有の」という表現がふさわしい事態です。

アメリカで住宅ローンが払えない人が大量に出て、住宅ローン会社やそれを支えていた金融機関（銀行など）が経営に行きづまり、何社も倒産していきました。これが、大恐慌の始まりでした。しかしこれだけなら、かつて日本で起こった「住宅バブル」がはじけた時と同じで、一国内の問題です。日本のバブル後遺症は、世界に大きな迷惑をかけたわけではなく、日本一国が十年以上にわたって苦しんだのでした。しかし、アメリカは、住宅ローンを回収する権利まで、「有価証券」（株などと同様にお金で売買できるもの）として世界中に売りさばっていたのです。そして、この証券が無価値で、紙くず同然であったとわかったとき、ヨーロッパや日本の銀行や保険会社や証券会社などが、それを大量に買い込んでいたために、巨額の損失を出しました。ここから金融危機が始まりました。

その対策として、ヨーロッパもアメリカも日本も、国家財政（国の税金）を使って、金融機関などを救済しています。おかげで、どの国も、福祉や教育や地方自治体に回るお金が削られています。だが、問題がこの範囲に収まるのなら、金融関係で働く人たちや投資家たちに被害が及びますが、全社会的な問題とは違います。ところが、この影響は世界中の製造業にまで及び、アメリカもヨーロッパも日本も、さらに中国やインドなど広範囲に生産の縮小が起こって来ました。日本経済を引っ張ってきた、自動車や電機、カメラ、鉄鋼などの巨大企業が軒並みに生産計画を減らすことを表明しています。そして、何万人という人がお正月を前にして、収入の道を失い、住むところも失うという人も出てきました。本当に大変な時代になったのです。

いまから高校、大学へと進もうとしている人たちには、こうした時代の厳しさを、いやでも体験させられることとなります。相当な覚悟や才覚や、人としての強さがこれまでも増して必要となるでしょう。時代の荒波に屈しないでほしいと、心から思います。

中3生は、ちょうど今、入試問題の「特訓」に取り組んでいます。

12月25日から29日までの5日間、連日、朝8時30分から（9時からの人もいます）午後4時半まで、中3生は志望校別特訓にとりこんでいます。午前中に、各自の志望校の入試問題を5教科（1年分）受験し、午後は1時半から4時半まで、全員「1：2」でそのテスト結果の解説指導を受けています。

この特訓は昨年からはじめたものですが、次のようなねらいがあります。1点でも無駄にしないよう、合格できる試験の受け方をマスターさせる。入試傾向に沿った解き方を身につけさせる。合格点をより確実にとるために、今後、入試までの期間に何を重点的にすべきかを明確にさせる。長時間の集中的な学習をとおして、気持ちを切り替え、直前の受験勉強に対する集中力・持続力・精神力をつけさせる。等です。

今年は、中3生13名に加えて6年生も1名参加して、総勢14名。特訓のための講師も毎日7名を確保し、わたしたちも連日早朝から深夜まで大忙しです。

この特訓を受けた後、さらに2コマの授業を受ける生徒も、何人かいます。志望校合格を確実にしたいという思いや、より上の高校を目指す人の熱意と努力は、間違いなく人を鍛えていくものだと思います。